

ヤーヤ祭り

1月28日

第39回目の放送は、東紀州の奇祭『ヤーヤ祭り』をご紹介します。

「チョウサ、チョウサ」という威勢のいい掛け声とともに、尾鷲に春を告げるのが、このヤーヤ祭り。

毎年2月1日～5日に行われる、尾鷲を代表するお祭りです。

旧の尾鷲の町から毎年3つの町が『禰務町』となり、大名行列をはじめとした祭りのさまざまな行事を担当します。

弓や太鼓の練習も早くから始まり、祭りを迎える準備は着々と進んでいきます。

天下の奇祭とよばれるヤーヤ祭り。

詳しいお話を、尾鷲神社宮司 加藤守朗さんに伺いました。



ヤーヤ祭りとは、尾鷲神社の例大祭のことをいいます。

祭りの呼び名は、武士が合戦のときに名乗りをあげる「ヤーヤー我こそは・・・」から始まったということで、とても歴史のあるお祭りなんです。

2月1日午前0時の『御扉開き』で祭りが始まり、午後7時から太鼓や法螺貝の音とともに旧の町内を練り歩く『在廻り』へと続きます。

そして、2月2日～4日には勇壮な練りがあり、5日の最終日を迎える・・・というわけなんです。

諸説ありますが、祭り自体は鎌倉時代から始まったのではないかとされています。

今のよう形になったのは江戸時代の初期から。

戦国時代、当時の地侍たちが尾鷲神社の神様の力を借りて合戦で大勝利を収め、「このことを後世まで伝えていかなければならない!」ということで、現在の祭りの形になったそうです。

江戸時代になると、裕福になった氏子たちからも祭りに参加したいという声上がり、それまで祭りを全て取り仕切ってきた『宮座』の親方衆から、氏子が『禱』を預かるようになって、そこから『禱屋制』ができたそうです。

禱屋制が発達すると、普通は宮座が衰退して家柄が無くなってしまふところが多いそうなんです、ヤーヤ祭りは、現在でも宮座と禱屋制が共存して祭りを守っています。

これは全国的にもとても珍しいことなんですって。

昔から、ヤーヤ祭りの時期になると、遠洋漁業で尾鷲を離れていた人たちは、尾鷲に帰ってきて祭りに参加されていたんですよ。

大切に大切に守られてきたお祭りなんですね。

役員の皆さんも、祭りを継承していくために頑張っています。

尾鷲神社副会長 東修さんにお話をうかがいました。



東さんも、このヤーヤ祭りをこよなく愛する方のお一人です。

やはり「ヤーヤ祭りが終わると春が来る」というイメージが強いという東さん。

各町のその時代を表す踊りや、各町の男たちが激しくぶつかり合う練り・・・

それらを実際に見て、初めてどんな祭りかわかると思うので、ぜひ見学に来てくださいますとおっしゃられていました。

夜の祭りのイメージが強いですが、見どころはたくさん。

皆さんも尾鷲に来て、ぜひこの祭りを楽しんでください。

尾鷲まるごと観光物産 WEB（ヤーヤ祭りの紹介ページ）

<http://owasekankou.com/event/fuyu/000232.html>

尾鷲神社 HP（ヤーヤ祭りの紹介ページ）

<http://owasejinja.net/owj/owj.html?pid=yahya>